



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年9月5日

№. 88

良い贈り物、完全な賜物はみな、
上から、光の源である御父から来るのです。
ヤコブの手紙 1章17節a



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。
エレミヤ書 15章16節b

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『見えるもの、

見えないもの』

牧師 佐藤和宏

マルコ7章18節、15節、21～23節

主イエスは「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである」と言われています。「見えるもの」とは、ファリサイ派の人々にとつて、外側を清めることで汚れは除かれるということでした。このような彼らの考えは、外側さえ清めれば内側は見えないのだから、何の問題もないという誤解につながります。清めの水で洗ひさえすれば、例えば心の中でどれほどつぶやいたとしても、一切問題にならないということ。まさに彼らに見える部分、人間的、表面的な部分で律法を捉えていたのです。ですから、主イエスは言われているのです。「人の中から出て来るものが、人を汚す」と。すなわち、人の中に

く、見えないものに目を向ける必要を教えているのです。しかしここで言う、見えないものは、神についてではなく、私たちの内にある罪についてであることは注意しなければなりません。

外側に見える部分だけを整えようとする私たちですが、内側の見えない部分を整えることを主は望まれているのです。

パウロは次のように言っています。「もし、わたしが望まないことをしているとしたら、それをしていないのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです」(ローマ7章20節)。このことから、今日主イエスが言われている「人の中から出て来るものが、人を汚す」とは、私たちの内にある罪のことだとわかるのです。人は見える部分である外側を整えようとするのですが、本当の問題とされているのは内側の見えない部分にほかならない。つまり、見える部分でどれほど正しく生きようとしても、良い行いをなさうとも、それは内側の罪に対して何の役にも立たないということなのです。

罪について、主イエスの教えとパ

ウロの言葉から聞きました。この「罪」について、「人の中から出て来るもの」と言い表すことができるでしょう。私たちの内側に、見えないように存在する罪が人を汚すというのです。罪は、見えない部分にありますから、人は時に罪を忘れてしまうのです。ですから、ただ内側にあるこの罪に、目を向けて行かなければならないのです。こうして内側の問題である罪を自覚するとき、自らの手ではどうすることもできない事実を思い知らされ、人は自分の行いによつてではなく、ただ神の憐れみによつて救われることを知るのです。

このように、私たちの罪は見えないものであり、しかも私たちの内にあり、私たち自身ではどうすることもできないのです。一方私たちに罪から救う力もまた、私たちには見えないのですが、私たちの外から来て、私たちを救うのです。ここで、見えるものである罪が、同じく見えないものである力によつて救いが実現されることが明らかになっています。つまり、「人の中から出て来るもので人を救うことはない」ということです。私たちの正しきや善い行い、熱心な

信仰、いずれも自らを救いに至らせることはできないのです。そうではなく、「外から、すなわち神から来るものが人を救う」のです。人は律法を行うことによつて、善い行い、良心、熱意などによつて、自らを救いに至らせることはなく、ただ神の憐れみにより、キリストの十字架によつて救われるということです。見えるものに目を向けてしまう私たちですが、この見えない神の御心によつて、私たちは赦され生かされているのです。私たちの見える部分はたとえ衰えても、現実がうまくいかないように見えるときにも、この神の御心にあつて私たちは生きるのです。この「見ることができない神」は、私たちの良いときにはもちろん、困難に直面するようなときにも、私たちに近づき、絶えず私たちと共にあり、私

たちを愛し、私たちに命を与えるのです。これがすべての者を生かすことを望む神の御心であり、キリストはもちろん律法の見えない深みに示されているのです。私たちにとつて見えないものである神によつて、私たちは安心してすべての人々と共に生きるのです。(聖霊降臨後第14主日)

野〇之

あなたがたはこの世に做ってはな
りません。むしろ、心を新たに
自分を変えていただき、何が神の御
心であるか、何が善いことと、神に
喜ばれ、また完全なことであるかを
わきまえるようになりなさい。

ローマの信徒への手紙12章2節

自分が嫌になつてしまふ時にふ
と、このみ言葉が頭をよぎります。
どんなに逆立ちしても、自分にはこ
のみ言葉のとおり生きることはで
きないだろうと思いますが、とても
心に響く、素晴らしいみ言葉だと
思っています。皆がこのみ言葉に
従つて生活していたら、世界中はと
ても平和で、天の国のような樂園に
なっているだろうと想像します。
生きるということの重みを、そして
生きているということに対する感謝
を、また神様が一緒にいてくれると
いう心強さを覚えて生活できたらと
祈りつつ、このみ言葉からまだまだ

程遠いところで毎日を過ごしている
自分を、深く反省しております。

自分は人の鏡になる様なことはで
きないのですが、このみ言葉にある
『この世に做つてはいけません。』…、
これだけでも実践するにはとても大
変なことではないでしょうか。

初めまして!

名〇恵〇子

主の御名を讃美いたします。
藤が丘教会で共に主を讃美できま
す幸いを、感謝しています。

ルーテル教会で子供の頃から育て
て頂き、保育者という仕事でもルー
テルの園で愛され守られ、今まで歩
んで来ました。大岡山幼稚園、京都
のぞみ保育園、小岩のルーテル保
育園 いつも神様が真ん中にいて、
祈り、讚美し、イエス様に愛されて
いる子ども達と日々過ごし、何もし
なくても神様を感じてきました。こ
の4月からキリスト教ではない保育
園での仕事が始まり、戸惑いながら
走り続けて今日まで来ています…。
「イエス様を中心とした保育がいかに
恵まれた時間であり、愛された毎

何もできていない自分は、このみ
言葉を実践するために一体何から始
めたら良いのか、もう一度心を新た
にして、自分の生活を変えていかな
ければと言いつつ聞かせながら、緊急事
態宣言の閉鎖的な毎日を自粛生活し
ております。

日であつたか」
を実感していま
す。ただ、以前
よりイエス様に



語りかけたり祈つたりする事は増え
たかな(?)と思つています。神様
にそばにいていただかないと、大切
な子ども達との毎日が守られ恵み多
いものにはならない様な気が…。(絶
対に守られているのですがね!)

仕事と切り離された教会生活を
しつかりとし、心にパワーをと思つ
ています。まだまだ余裕のない毎日
ですが、皆様と共に礼拝を守りイエ
ス様を感じながら過ごしていきたい
ですね。

主に守られた日々を豊かに過ごし
ていきます様に、そして皆様との良
き交わりに感謝しつつ、よろしくお
願いいたします。

『教会(牧師)と私』

田〇子

5月9日佐藤牧師より藤が丘教会
へ転入の祈りをして頂きありがと
うございました。月報の依頼がありこ
れまでの歩みを振り返ってみました。

「主われを愛す、主は強ければ
われ弱くとも 恐れはあらし
わが主イエス わが主イエス
わが主イエス われを愛す」

(教団讚美歌461番)

幼い頃、祖母の住む唐津で数年過
ごしました。祖母が教会へ行く道す
がら口ずさんでいた讚美歌で、私が
初めて覚えた讚美歌です。母に連れ
られ鹿児島教会(内野牧師)へ行く
ようになり小学五年生の時、母のい
う通りに何もわからないまま坂根牧
師から小児洗礼を受けました。中学
生の時、神学校を卒業、結婚され
たばかりの佐藤邦宏牧師(和宏牧師
のお父様)が鹿児島へ赴任され、高
校一年の時、佐藤牧師により堅信礼
を受けました。私は教会(佐藤家)
にどっぷり(?)の日々を過ごして
いました。そこで信仰の基を覚えて

頂いたのかなと思います。奥さまの玲子先生の子育てを見ながら、私も保育者の道をと、同じ短大に進み、日曜日は天王寺教会（森牧師）へ。卒業後、不思議なご縁で挙母教会へ（緒方牧師）。教会附属の幼稚園に勤務しながら活発だった青年会活動に参加しました。

二年後鹿児島へ帰り、キリスト教団の幼稚園（和君。和宏牧師は、園児でした）に勤務。しばらくして佐藤牧師一家は、転勤で鹿児島を去られました。

その後の私の鹿児島での十年余：（息子は宇野牧師から小児洗礼を受けました。）色々な事があり環境が変わり、どっぶり（？）の教会生活を送っていた私は、今思うと考えられない日々を過ごしていました。

思い悩む私に熊本への道が与えられました。慈愛園の施設で働き、神水教会へ（高倉牧師。林牧師。末竹牧師。角本牧師。）礼拝の時は癒しと慰めと道標と感謝のひとつときだったなと思います。少しずつ教会への奉仕の時間が与えられ、仕事も介護から再び保育者の道が与えられました。九州学院の幼稚園、阿蘇のY

MCAの保育園での仕事を最後に、しばらくのんびりしようと思っていた時の熊本地震。住んでいた阿蘇への道も閉ざされていました。が・・・地震から一ヶ月余。私は、息子の住む川崎市の住民となりました。川崎が最後の地と思いつつも、教会から遠ざかり悶々とした日々を過ごしていました。でも、「クリスマスは、教会へ行きたい！」息子が「藤が丘にルーテル教会あるよ」と。「牧

追憶

津〇〇子

藤が丘に住むようになってかれこれ50年になります。昭和44年に藤が丘二丁目B自治会ができ、プレハブの教会が新しく建て直されるまで、自治会の会館を借り、互いの交流が始まりました。私は子供会の委員をしていて、地域の土地開発の様子を多少なりと見てきました。自治会活動や教会を通して多くの人に会いました。

同じ自治会の〇内〇生さん（田〇〇はるみさんのお母様で、現在101歳、今もお元気です）とは、近所の

師は？」と聞くと「佐藤和宏牧師」私は、何十年ぶりでしょうか？立派になられた「和君」の前にいました。（三年前のクリスマスです。）唐津教会、鹿児島、天王寺、挙母、神水、そして藤が丘教会。そこで出会った牧師先生方との関わりは、先生方の祈りの内に在ることを改めて気づかされています。

どんな時でも『イエス様の十字架の影で守られている』ことを忘れず

和裁教室で初めて知り合いになりました。当時、民生委員と教会役員をしておられ、「今日は自治会のぶん」、「今日は教会のぶん」と、古新聞や空き缶を集めては、自宅の玄関先で束ねたり、潰したりしていました。私も時々、お年寄りのお世話を一緒にしました。〇内さんの後、〇村〇子さんが民生委員、国勢調査員と引き継がれ、私も顔見知りになりました。老人福祉の仕事をしていた42歳のころですが、自治会のサークルで手作り仕事を始めました。

そこでお会いした〇田〇子さんは、素晴らしい毛糸の編み込みチョッキを、「寄せ集め、残り毛糸

に、祈り、感謝しながらこれからも歩みたいと思っています。

「わが行く道 いついかに
なるべきかは つゆ知らねど
主はみこころ なしたまわん
そなえたもう 主のみちを
ふみてゆかん ひとすじに」
（讚美歌494番）
よろしくお願い致します。

です」「思うまま気のむくままですよ」と、本も型紙も見ないで、チャカチャカと、それは見事、鮮やかでした。お孫さんと私の子供たちは藤が丘小学校で同級生でした。

自治会ではコーラスサークルもあり、コーラスの指導者は〇村〇子さんで、私は病気回復後の平成18年に参加しました。村田さん、田〇〇子など7人のメンバーでおしゃべりばかりしていると、ニコニコしていた竹村さんが、「さあ、始めましょう」。〇田さんは体操をし、田〇さんが電子オルガンを弾き、コピーされた楽譜が配られます。「あなたは

これ」「あなたはこのパートよ」と、一枚一枚に名前が書かれていて、○村さんは優しいお顔ですが、間違えると時々厳しく、ぴしゃつとおっしゃるのですが、私達はうまく歌えませんでした。年に1、2回は食事会に出かけたりもしました。

コーラスの席で田○さんに「教会に行ってみよう」と話しました。二日後のクリスマスイブでは、教会の玄関前で、讃美歌の大合唱に加わりました。安○○子さんと○内さんの家の前でも歌い、飴玉をいただいて気分良く帰宅しました。

翌日から教会に行き始めました。平成19年のことです。翌平成20年4月のイースターの日に、小副川先生から洗礼を受けました。64歳でした。

女性会のお仕事会では、手芸をはじめ、田○さんのクリスマスの作品刺繍はお見事でした。今思うと、田中さんには、藤が丘駅のプラットホームでお目にかかりました。ベンチにもう一人のご婦人がいました。後で聞きますと、教会の安○○子さんでした。体操教室に通っておられたそうです。田○さんはピアノの先生で、

お宅の前から聞こえる音に私は耳を傾け、子供たちの手が離れたら教えて頂きたいと思ったものです。

こんなこともありました。子供たちが小学生のころ、数人で猫を持ってきました。学校は夏休みに入るので、我が家で飼ってほしいと。猫があまり好きでない私は困りましたが、しかたがない。飼うことにしました。真っ白な顔に、黒の模様がある三毛猫で、人に一言わせると大そうな美人猫とか。ある日、我が家を脱走。いく晩も探し、梅が丘の公園にいたり、ある日は知人から電話がありました。田○さんの家の前で車にはねられ、保護をしていると。どうも我が家の猫は、田○さんの家にいた猫と瓜二つで、子供だったらいいのです。話は遡りますが、自治会の催し物で、藤嶺会（老人会）では初めてハインドベルを披露することになりました。コーラスのグループでは時々練習していましたが、藤嶺会では初めてです。メンバーの○村さんはベルにはGとかE、Fとかのシールを貼り付け、音符には赤、黄、青のマジックで丸印がしである曲を持って

これ、「あなたはここよ」「あなたは二本のベルを持ってね」と。音符にカナをふり、私たちは足で拍子を取り、首を振って休止符を。

昼食抜きの練習でした。本番では○村さんご自分のコーラス発表会と重なってしまい欠席、私たちは冷汗かきかきでした。会場から歌声が聞こえてきて大助かり、まずは大成功でした。

○田さんは御主人を亡くされてから、お一人で大きなお家に住んでおられました。夕方、藤が丘駅方面に坂を下っていかれ、お会いすると「チョットご飯が足りないのでパンを買に行きますの」。よく藤が丘駅前あたりでお好きなコーヒーをお召あがりのようでした。はきはきは元気のよいお方でしたが、お一人は淋しかったでしょう。


教会のお仕事会では時に戦時中の教会の悲惨な話を聞かせてくださったことを思い出します。

○村さんのお宅は草花や木々が沢山あり、お世話はお一人でだそうです。私も一人でやっていますので、よく今は何を剪定したとか、どうす

ればよいとかお話ししました。「草取りは一日大きいビニール袋一つと決めているの。そうしないとときりがないでしょう」と教わりました。

また藤が丘2丁目の交差点あたりで、夕方よく竹村さんにお会いしました。○村さんは、「これからコーラスの楽譜の印刷に行くの」「今から教会の祭壇のお花を選びに」、「お花の教室のお花を注文にね」、「お花の水を取り換えにね」と。ある時は駅の方から大きな花束をかかえて登ってこられて、「今日のお花は春らしいでしょう」、「今日のは秋らしいでしょう。これに我が家の枝ものを添えていけるの」と、話されました。ところが、ある時、大きな花束をかかえて坂道を上ってこられたところ、転んで転倒、骨折。車道側に倒れず、ほっとしました。すぐに立ち直られ、私は良い言葉かどうか分かりませんが、「不死鳥ですね」と言っていました。

「藤が丘の坂を登ってごらん・・・」（作詞作曲○田○さん）。この歌を歌うたびに、今は亡き○村○子さん、田○○子さん、○田○子さんを思い



今月の受洗記念日の皆さん


4日 ○田和○姉

5日 松○太郎兄

9日 ○井○之丞兄、○林○紗姉

30日 吉○沙姉、吉○朗兄、吉○樹兄

おめでとうございます。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書15章16節b
毎日福音ウェブサイト <https://www.jfc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで毎日のライブ中継をしています。(毎日朝10時～)

出します。時々、夕方、日の暮れる頃、どなたかとお目にかかれるかと探してしまいます。三人の方々に5年もの間、いろいろと教わりました。今、教会の玄関のウインドウには、○村さんのあとを継ぎ、毎週お花がいけられています。今日、私はちよつと立ち寄り、散った花びらを拾い、水を差してきました。

どうぞやすらかにお三方で、天国で教会の話に花を咲かせ、私たちを見守ってください。教会の玄関の壁にかかっている少女の絵は、田○さんがお描きになったものだそうです。

■教会の動向



9月の予定をお知らせします。1日には、聖研が再開されました。直前の日曜日の福音の日課を振り返り、出席者の自由な分かち合いなど、10人ほどで良いときを過ごしています。どなたでもご出席いただけます。また、ズームを通じた参加も可能ですので、希望される方はご連絡ください。

5日には、CSが再開されます。今より開始時間を9時半といたします。

す。この日の礼拝には、グループAの皆さんが出席できます。礼拝に引き続き、ルーテル学院大学・神学校の講壇奉仕プログラムにより、上村敏文准教授による講演会「神道とキリスト教 水と油が…。」(ズーム)が予定されています。

12日の礼拝はグループBの皆さんが出席できます。礼拝後、定例役員会が予定されています。新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない現状を受けて、今後の対応等について協議される予定です。このほか、拡大宣教委員会で取り上げて来た事柄についても、皆さんに直接ご説明をするとともに、ご意見をいただく機会も必要と思われるので、役員会で相談出来ればと思います。15日には聖研が予定されています。

■牧師室より

厳しい残暑、新型コロナウイルス感染拡大。不安の中にある皆さんのご健康が守られますように。

現在、感染拡大の状況にあります。これまで同様、当教会感染防止対策マニュアル(2020年6月作

教会ツイートから

「あなたがたは・・・励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。」

テサロニケの信徒への手紙一
5章11節(部分)

人は信仰も含めてあらゆることを比較して生きてしまいます。しかし大切なことは優劣ではなく、すべてが救われることを望まれる神の御心です。お互いを思つて、祈り合いまししょう。

19日の礼拝には、グループAの皆さんにお越しいただけます。26日の礼拝には、グループBの皆さんがご出席になれます。

成)に従い、適宜対応いたします。礼拝は引き続き、2つのグループに分けて実施いたしますが、体調が心配な方や公共交通機関を利用される方は、決して無理をなさらないでください。礼拝出席を見合わせることも含め、各自判断していただきませう、お願いします。(佐藤)